作物名：水稲
病害虫名：イネミズゾウムシ（学名：*Lissorhoptrus oryzophilus*）

1　被害の特徴と診断のポイント

写真１　成虫

（１）　越冬成虫による本田初期の新葉の食害

- 田植直後の軟らかいイネの葉に、表皮を残した線状の細長い食痕が断続的にみられる。
- 密度が低い場合には、畦畔沿いに多く生息する傾向がある。
- 主に夜間に葉を食害する（日中は根に潜むが、水があると、日中でも葉上にみられる。）

（２）　幼虫による根の食害

- 田植２週間後から、幼虫が土中で根を食害。ひどいと分げつが抑えられ、株は容易に引き抜ける。

（３）　虫の特徴

- 成虫：体長約３mm。体表面は灰褐色のりん片で覆われ、背面に黒色斑紋、触角は赤褐色の棍棒状。
- 幼虫：約８mm、乳白色でわん曲する。頭部は黄褐色で、背面に６個の突起がある。

写真２　食害痕

2　生態

- 単為生殖し、年１回発生。
- 成虫で越冬し、越冬成虫は４月下旬～５月上旬に越冬地(畦畔、雑草地など)付近のイネ科雑草（ネザサ、チガヤ、ススキなど）の新葉を摂食し始め、田植が始まると次々と本田へ侵入する。侵入最盛期は平年では５月末から６月上旬。
- 卵は、水面下の葉鞘組織内に１個ずつばらばらに産み込まれる（１か月以上の間、１～２個／日）。
- 幼虫は、根の内部に潜入し、空洞状に食害する。
- 土まゆは、根に連なる。８月中旬頃に羽化した新成虫は、越冬地へ移動する。
- 発育日数は、卵７日、幼虫 30 日、蛹７～14 日である。

3　発生しやすい条件

- 稚苗移植や、移植時期が早い…若く軟らかい葉を好んで摂食する。侵入は移植時期が早いほど多い。
- 低湿田、厩肥多用田…苗の活着が悪いと、幼虫の被害が顕著となる。
- 山間の水田…周囲に山林があり、越冬場所に恵まれる。

4　防除方法

（１）　要防除水準

- 株当たりの成虫密度で５月第２半旬植えの場合 5.7 頭、５月第４半旬植えの場合 1.4 頭、５月第６半旬植えの場合 0.7 頭である。

（２）　耕種的防除

- 周辺ほ場に比べて田植えが早いと、成虫の侵入が集中する。田植え時期をできるだけあわせて浅水管理をする。

（３）　化学的防除

- 育苗箱施用剤、水面施用剤(幼虫対象６月上旬、成虫及び幼虫５月末)を適期に使用する。

5　出典

（１）　参考文献

- 宮城の稲作指導指針（基本編）
- 原色病害虫診断防除偏１（農文協）
- 農業総覧　病害虫防除・資材編１（農文協）

（２）　写真

- 宮城県病害虫防除所撮影

（令和５年９月改訂）